

調布市立中学校部活動地域連携・地域移行に関する推進計画(素案)に対するパブリック・コメントの実施結果

【パブリック・コメント手続の実施概要】

1 意見募集の概要

- (1) 意見の募集期間 令和6年10月7日(月)～令和6年11月5日(火)
- (2) 周知方法 市報(令和6年10月5日号, 10月20日号), 市ホームページ, 市公式X(旧Twitter)及び市公式LINE
- (3) 資料の閲覧場所 公文書資料室, 神代出張所, 各図書館・各公民館・各地域福祉センター(染地を除く), みんなの広場(たづくり11階), 市民活動支援センター(市民プラザあくろす2階), 教育会館(1階), 総合体育館
- (4) 意見の提出方法 氏名, 住所, 御意見を記入し, 直接又は郵送, FAX, Eメール, インターネット専用フォームで提出
※資料の閲覧場所に設置する意見提出箱への提出も可

2 意見募集の概要

- (1) 意見提出件数: 10件(7人)

＜提出意見の内訳＞

第1章「はじめに(策定の背景, 策定の目的, 計画の位置付け)」に対する意見……0件
第2章「市立中学校における部活動の現状と課題」に対する意見……………0件
第3章「市の目指す方向性」に対する意見……………1件
第4章「部活動の地域連携・地域移行における基本方針」に対する意見……………4件
第5章「計画期間における主な取組」に対する意見……………3件
その他……………2件

- (2) 意見の概要と意見に対する市の考え方 別紙のとおり

【意見の概要と意見に対する市の考え方】

第3章 市の目指す方向性

項目	No	御意見等の概要	市の考え方
第3章	1	<p><意見要旨></p> <p>1. 市立中学校の部活動実施日は、試合や大会等を除き、原則平日のみとする方針にいただきたい。（長期休暇中も同様）</p> <p>2. 地域クラブは部活動の代替ではなく、あくまで自由意思による地域の有志活動として位置付けていただきたい。</p> <p><具体的な修正案></p> <p>素案の「第3章 市の目指す方向性」を、以下のように修正していただきたい。</p> <p>1. 目指す将来像（修正案）</p> <p>①「子どもたちにきめ細やかで質の高い教育を持続的に提供するためには、教員のワークライフバランスの充実が必要不可欠である」という意識の下、部活動は原則として平日にのみ実施することで、生徒・教員のいずれもが無理なく充実した学校生活を送ることができている。</p> <p>②「地域の子どもたちは、学校を含めた地域で育てる」という意識の下、調布市の地域資源を活用した部活動の地域連携を進めることで、市民が生涯にわたって地域の中で様々なスポーツ・文化芸術活動を通じた子育てに携わることができるまちづくりが進められている。</p> <p>2. 推進目標（修正案）</p> <p>①可能な限り早期に、全ての部活動を原則平日のみとし、休日は試合や大会等を除き休養日とする。</p> <p>②令和9年度以降、部活動における地域連携が進み、子どもたちが地域人材等による技術指導を受けられている。</p> <p><補足説明></p> <p>①「教員の負担削減」と「部活動の継続実施」を両立させるためには、部活動の実施日を原則平日のみとすることが、最も効果的かつ実現させやすいと考える。休日の部活動ありきで施策を考えるのではなく、むしろ生徒も教員も、休日は原則休養日として考えたほうが現状に合うものと思われる。試合や大会の引率は引き続き教員の負担となるが、指導者の地域連携を進めることで徐々に緩和されていくであろう。</p> <p>②地域クラブについては、趣旨と理想は理解できるものの、市内全域において全ての部活動の種類を地域クラブでカバーし続けるのは非常に難しいと思われる。よって、地域クラブは部活動の代替として考えるのではなく、あくまで自由意思による地域の有志活動として位置付けるのが現実的である。仮に全ての部活動を地域クラブで代替しようとした場合、地域クラブの数によって部活動の選択肢が狭められることが想定され、そうなってしまえば本末転倒である。</p> <p>③経験上、地域クラブの運営には指導者の確保や保護者の費用負担だけでなく、実施場所の手配、各種事務連絡、会計処理、学校や大会本部・他団体との連携等において多くの事務作業が発生し、その多くは保護者のボランティアによって賄われる。部活動の地域移行を進めることによって保護者のボランティア負担が増大するとすれば、結果として保護者の反発を招くとともに、子育ての負担感が増大し、ひいては少子化に更なる拍車をかけることにもなりかねない。</p> <p>以上</p>	<p>1 令和5年度に市立中学校を対象に実施した部活動の実施状況等調査では、休日に毎週活動している部活動の割合は、運動部で約97%、文化部で約23%となっております。この実態等を踏まえ、令和9年度以降、可能な限り早期に全ての休日部活動において地域連携か地域移行を実施することで、生徒のスポーツ・文化芸術活動の機会を持続的に確保するとともに、段階的に、兼業を望まない教員が指導に携わらずに活動できる体制の構築に向けて進めて参ります。</p> <p>2 地域クラブ活動は、部活動と同様、任意の活動となります。学校部活動は学校が主体となって行われる部活動として、地域クラブ活動は「地域人材が主体」となって行われる活動ととなりますが、これまでの部活動としての活動を地域に移行し、新たな地域クラブにおいて、引き続き生徒の活動機会を確保するため、市及び市教育委員会として、本計画に基づき取組を進めて参ります。</p>

第4章 部活動の地域連携・地域移行における基本方針

項目	No	御意見等の概要	市の考え方
第4章	2	<p>方針1 地域におけるスポーツ・文化芸術活動環境の整備について ①生徒のニーズを踏まえたスポーツ・文化芸術活動環境の整備および方針3 活動場所の確保</p> <p>敷地内禁煙となっている学校教育機関以外の場所で、活動を行う場合に、禁煙でない場所で受動喫煙を強いられる懸念があります。</p> <p>子どもたちが活動を行う場合は、完全禁煙であること、受動喫煙が強いられない場所であることなどを要件とするよう、今後の指針に含めてください。</p>	<p>市が定める調布市受動喫煙防止条例では、市立施設（市又は市の委託等を受けたものが管理する庁舎、学校、児童福祉施設、公園その他の施設をいう。ただし、市長等が定める施設を除く。）での喫煙を禁止しています。</p> <p>ご意見を踏まえ、方針2指導者の量の確保及び質の向上において受動喫煙防止の観点を追記しました。調布市受動喫煙防止条例の趣旨を踏まえ、生徒の心身の健康管理の視点に留意しながら、計画に基づく取組を進めて参ります。</p>
第4章	3	<p>方針1 地域におけるスポーツ・文化芸術活動環境の整備について</p> <p>②部活動の地域移行を担う運営団体・実施主体の確保</p> <p>タバコ産業は、こうしたスポーツ・芸術分野の団体のスポンサーとなることで（バレー、将棋、オーケストラ、器械体操等）、影響力を行使し、喫煙を許容する文化を創り出そうとしています。</p> <p>そのようなタバコ産業の戦略に対し、IOCとWHOはタバコのないオリンピックの協定を結び、オリンピックではタバコ会社のスポンサーシップをすべて排除しています。</p> <p>調布市における地域移行を担う運営団体・実施主体においては、子どもたちが無意識のうちにタバコやタバコ会社に好意・関心を持たないように、タバコ産業の関与やスポンサーシップがない団体等に限るようにしてください。</p> <p>もしタバコ産業の関与が発覚した場合、調布市の大きな汚点となります。</p>	
第4章	4	<p>方針2 指導者の量の確保及び質の向上</p> <p>指導者は、なるべく非喫煙者とするを要件としてください。</p> <p>代わりになる人材がいらないなどやむをえず、喫煙者の指導者を着任せざるを得ない場合は、指導中および指導前後に喫煙をしないようにルールを定めて徹底してください。</p> <p>指導者が喫煙者であると、子どもたちもその影響を受けて喫煙者になってしまうリスクが高まります。</p> <p>パリオリンピックでも体操選手が喫煙をして出場できなくなった事件は、記憶に新しいかと思いますが、そもそも喫煙するようになってしまったことや、喫煙をとめられなかったのは周辺の大人の喫煙の影響によるものです。</p> <p>また、喫煙をしてから約40分は、呼気に有害物質が多量に含まれています（加熱式タバコも同様です）。そのような有害物質を吐き続ける指導者から子どもたちが指導を受けた場合、特に持病やぜんそくをもつ子どもは命にかかわる問題になります。</p> <p>さらに、喫煙者は非喫煙者に比べてDV、パワハラなど暴力的言動を行うリスクが圧倒的に高いことがわかっています。</p> <p>そもそも、喫煙者は子どもを傷つけ、子どもに悪影響をもたらすことから指導者として不適格です。</p> <p>指導者の採用時には、喫煙者であるかどうか必ず確認をするようにしてください。</p>	
第4章	5	<p>方針2について</p> <p>生徒に対する暴力行為、ハラスメント等不適切な行為については、思春期の中学生にとって、とても慎重になるべき重要な点であると考えます。子ども達が毎日通う学校が子どもを傷つける場であってはなりません。</p> <p>部活動は内容によっては密室での活動となる可能性があります。特に近年、指導者と生徒という関係性から生まれる性暴力事件というあってはならない報道が絶えることなく発生している現状があります。パワハラやセクハラ等のハラスメントから子ども達を守ることは学校教育現場においてとても重要なことでありますが、世代間格差によりその価値観がずれていると感じることがあります。</p> <p>そこで、市として多様な教育以外の人材を入れるとしたら、しっかりと成長途中である思春期の中学生への声かけの仕方や、指導するにあたり人権を尊重することや、体に触れるなどについて子ども達を傷つける不適切な行為に繋がらないような研修を必須として頂きたいと考えます。なんとなくわかっているだろう、常識の範囲だ等で曖昧にせず、性別問わず子ども達への適切な距離の取り方をしっかりと伝えてほしいと思うので研修必須としてほしいです。</p> <p>また、指導料としての報酬について、質の確保という観点から適切な金額にしていくべきと考えます。慎重に協議してほしいと思います。</p>	<p>生徒に対し、指導者による暴言・暴力、行き過ぎた指導、ハラスメントなどの不適切行為を決して起こさせないように、研修の充実や活動ガイドラインの整理を検討して参ります。本計画に基づく取組が生徒に関わる活動であることを十分留意しながら進めて参ります。</p> <p>また、指導者への謝礼については、いただいた御意見を参考にさせていただくとともに、保護者等の負担も考慮しながら検討して参ります。</p>

第5章 計画期間における主な取組

項目	No	御意見等の概要	市の考え方
第5章	6	<p>部活動の地域移行にあたっては、受動喫煙のない環境で行うべきであることや、指導者が非喫煙者であること、タバコ産業の関与を防ぐことが重要になってきます。（特にスポーツ分野においては）</p> <p>このことを認識していない、重要視していない方が非常に多くいらっしゃいますので、まずは関係者への啓発が必要です。</p> <p>調布市医師会・歯科医師会・薬剤師会がバックアップして運営されているちょうふタバコ対策ネットワークへ講演依頼をし、これらの啓発活動を実施してください。</p>	<p>ご意見を踏まえ、方針2指導者の量の確保及び質の向上において受動喫煙防止の観点を追記しました。調布市受動喫煙防止条例の趣旨を踏まえ、生徒の心身の健康管理の視点に留意しながら、計画に基づく取組を進めて参ります。</p>
第5章	7	<p>これまでの中学校部活（囲碁部）との関わりを整理し、今後のあり方についてコメントします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3中 2018年に前校長主導で囲碁部を立ち上げ、囲碁経験者の校長＋顧問の先生で指導。その後、有段者指導のため、囲碁連盟に相談があり、地域ボランティア2名で支援開始。校長退職後、顧問の先生1名＋地域ボランティア2名で活動を続けていたが、2024年度は1年生の新入部員15名が入部、地域ボランティアを4名に増員。 ・6中 2024/12のPTA教育懇談会で「囲碁」をテーマにプロ棋士の後援会＋テーブルディスカッションが行われ、その場に囲碁連盟からオブザーバー参加。6中校長から、2024年度囲碁部立ち上げの相談があり、囲碁連盟として持ち帰り。囲碁普及活動推進中のGOMARU（洪道場）に相談したところ、前向きな回答。2024/4に11名で囲碁部が発足、洪道場＋地域ボランティア4名で活動中。 <p>上記3中のケースは、囲碁スキルとリーダーシップを持った先生が素晴らしい囲碁部を立ち上げましたが、先生の異動等による継続性が課題と思われる。</p> <p>6中のケースは、学校に囲碁スキルを持った先生がいない中で外部・地域連携で囲碁部を立ち上げたもので、予算面の支援があれば、継続性のある活動にできると思います。</p> <p>小学生向けには、文化庁伝統文化親子教室事業「こども囲碁教室」で20名以上のこどもを受け入れています。また、「囲碁部のある中学に進学させたい」といった希望も聞かれ、部活のモデル校的な取り組みも有意義と思います。</p> <p>以上</p>	<p>この度いただきましたご意見のうち、市立中学校で今年度から新たに囲碁部を設置することができた件につきましては、調布市文化協会を通じた調布囲碁連盟の御協力の下、速やかに実現に至った事例であります。</p> <p>学校はもとより、活動を希望する生徒たちにとって、望んでいた結果につながったと考えています。</p> <p>現在では、加入する生徒も増えていることに加え、こども囲碁教室で活動する児童の中には、囲碁部のある中学への進学を希望する声もあって伺っています。</p> <p>本事例については、今後の部活動の地域連携・地域移行に向けた検討を進める中で、1つのモデルケースと捉え、生徒の意向を十分に生かしながら、適切な専門人材との連携と必要な財源の確保に努めて参ります。</p>

項目	No	御意見等の概要	市の考え方
第5章	8	<p>調布市のために、いつもありがとうございます。私は現在調布市立神代中学校に子どもを通わせております。</p> <p>メールさせていただいたのは、神代中のラグビー部についてです。調布市の部活動地域連携・地域移行のながれから、今年度から神代中学校のラグビー部も土日の活動を地域（調布市）のライオンズというラグビークラブに所属させていただき、活動しています。クラブの関係者に神代中のラグビー部の保護者もあり、毎週様々な方々に指導を受け頑張っておりますし、指導していただいていることには非常に感謝しております。が、そのことによる弊害が多少なりとも保護者の中では出てきておりますので、ここに挙げさせていただきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この地域への移行が、あまりにも突然、今年度のはじめに顧問からの手紙のデータとクラブへの業務委託の書類などで保護者に伝えられました。市の資料を見ると何年か前から移行期間なはずですが、神代中ラグビー部ではそれまで何の説明もなく土日の地域移行が今年度からはじめられました。市の資料の「生徒や保護者のアンケート」は令和4年のものであり、今年度、神代中ラグビー部の部員や保護者にはこのアンケートは行われておりません。少なくとも部活動を地域に移行していくうえで、市側や学校（顧問）からのきちんとした説明が、できれば入学前におこなわれてもよかったのではないかと考えます。 ・神代中学校は調布市内で唯一、公立校でラグビー部がある中学校です。関東大会にも何度も出ている名門校であると思います。調布市の誇りだとも聞きました、今年度の異動でラグビー部をしっかりと見てくださる顧問の先生が異動され、現在の顧問はラグビーに一生懸命な感じがせず。平日たいては練習もしない、たまに見にくる。土日はクラブに任せて見ないでは、ラグビーをやるために、中学校からラグビーで頑張りたいという子どもにとってはどうなのでしょう？中学生なので「そんなもんか」と思ってしまうかもしれませんが、保護者としてはどうも解せません。国や東京都からのながれでこのような形がいずれは主流になっていくのでしょうが、生徒の総数も子どもの数も増えている調布市で、合同ではなく単独の神代中学校として活動ができるラグビー部で、この地域移行が果たして今必要なのかということを考えた方がよいと思っています。 ・教員の働き方改革で、教員が部活を見なくなる時代が来ることは十分に承知していますし、そのために現顧問が「見たくても見ない」「指導したいけどしない」ということなのかもしれませんが（そうは思えませんが…）が、もう少しこの移行の仕方を考えないと、子どもたちが大人のエゴに振り回されているような気がしてなりません。教員が必ず顧問をしるか、休むなど言っているわけではありません。やり方をもう少し考えないと、今のままだと必ずどこかで破綻します。（市民である保護者の不満が爆発します） ・ラグビーという競技では、現在中体連の大会にいわゆる地域のクラブは出ておりません。また、ラグビー部のある学校は、その多くが私立の学校であり、これらの地域移行や部活のあり方が公立のそれとは、少し離れたところにあります。そんな特性から、ラグビー部の地域への移行というのは、相当うまくやらなければ失敗に終わると思いますし、学校側（顧問）とクラブ側の連携などを相当うまくとっていかないと、学校での生活態度とクラブは全く別物という風になってしまったとき「教育」という意味ではばらばらのものになってしまいます。学校＝地域という考えからすれば、そこを上手に繋げられないと「いい地域への部活の移行」はないと考えます。ラグビー部はなくすという考えが現顧問や学校側にあるならそれでもいいですが、今いる子たちをしっかりと最後まで面倒見てほしいです。 <p>上に言いたいことを書きましたが、つまりは「今の子どもたち（中学生）が、大人のエゴに振り回されない、勉強もふくめた学校生活や部活動も、一生懸命に打ち込めるような環境づくりをするために、上手な移行をしていただきたい」ということです。</p> <p>不躰なメールで気を悪くされたかもしれません。が、調布市の担当の方や、教職員、地域のクラブの方々には、本当にいつも感謝しています。ありがとうございます。調布市の教育のことを心配している者の意見として書かせていただきました。失礼いたします。</p>	<p>貴中学校においては、部活動の実態を踏まえ、学校独自に休日部活動の地域移行を進めているものと思われます。</p> <p>市としましては、国や東京都の動向を踏まえるとともに、市立中学校における部活動の現状として学校単位での活動が困難になっている状況も一部で見られることから、まずは、休日部活動において地域連携か地域移行の実施を目指しております。今後、地域移行に向けた地域クラブ活動のトライアル事業などの取組を実施して参りますが、生徒を主眼に置きながら各取組を進めて参ります。</p>

項目	No	御意見等の概要	市の考え方
その他	9	<p>都立高校の音楽教員として長年部活動の指導に携わってきた経験を踏まえて、音楽系部活動における地域連携・地域移行の考え方について意見を記させていただきます。</p> <p>運動系の部活動では、他校との試合が活動の中心であり、大会で好成績を残すことが大きな目標となっていますが、音楽系の部活動では、対外的なコンクールもありますが、これは必須ではなく、文化祭などの校内行事等における発表の機会、地域や他校との様々な交流の場、あるいは年間活動の集大成としての定期演奏会など、多様な活動を通して、生徒たちの音楽を愛好する心情を育成します。</p> <p>中学校での音楽系部活動には吹奏楽や合唱などがありますが、それらは活動の有様がかなり異なっており、また、学校によっても、規模や実態が多様な中で、これらの部活動を一律に同じ原則で地域移行してしまうことは、部活動の形態を一面的なものにしてしまう上に、生徒たちの自発的な決定権を損ない、ひいては青少年の音楽文化の豊かさを奪ってしまうのではないかと危惧するものです。</p> <p>私は、音楽系の部活動に関しては、全て地域に移行してしまうのではなく、各学校の各部活のそれぞれの実態に合わせて、校内で行う部分と学校外で行う部分を適切に組み合わせる運営するのが好ましいと考えます。</p> <p>特に吹奏楽に関して言うと、各楽器の初心者に対して全て顧問教員が指導するというのは大変な負担になるというか実質的にほぼ不可能な訳ですが、それぞれに外部指導員を依頼するとなると8人から12人程度のコーチを手配しなければならず、それだけでも大変な手間がかかります。そこで、たとえば吹奏楽の各楽器専門の外部指導員を教育委員会など調布市全体の枠組みで委嘱した上で、各学校に派遣したり、休日に楽器ごとに1か所に集めて、顧問教員の付き添いがいない状態で、初心者の指導を行ったり、コンクールの課題曲のパート別の指導を行ったりできるようなシステムがあると、教員の負担を軽減しつつ、費用対効果もあげられるのではないかと考えます。</p> <p>音楽系部活動の発表の場として、校内の文化祭などは重要です。このような機会は、部員の意欲を高めるとともに、新入部員獲得のアピールの場でもあります。地域連携や移行が進むことで校内での発表の場を失ってしまい、生徒たちのモチベーションを下げてしまうのではないかと懸念もあります。</p> <p>吹奏楽に関しては、できるだけ学校単位の活動を基本にしつつ、休日練習に関しては外部指導員による楽器別の指導を中心にするのが好ましいのではないのでしょうか。</p> <p>地域連携はいいと思いますが、完全な地域移行については慎重に検討していただくことを要望いたします。</p>	<p>今後、地域移行に向けた地域クラブ活動のトライアル事業などの取組を実施し、効果や課題を整理・検証しながら進めて参りますが、いただいた御意見につきましても、今後の取組の参考にさせていただきます。</p>
その他	10	<p>「ふる里で在るしぜん地球の今をいい日に」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・逆に指導者を学校に呼べば？ ・「ようこそ先ばい」などの様に。 	<p>いただいた御意見につきましては、外部人材を活用した指導者の確保と捉えて掲載させていただきました。学校部活動における部活動指導員・部活動外部指導員や、休日等の地域クラブ活動における指導者を継続的・安定的に確保し、持続可能な活動としていく必要があると考えております。</p>

※御意見は、原則、いただいた原文を基に掲載しています。